

# 表紙のことば

広島県（JA広島ゆたか）

写真と文：大塚雅貴



「島では年代に関係なく素直に話せるところが魅力です」

就農して7年、広島県の瀬戸内海に浮かぶ大崎下島でレモンを栽培する新開智さん（38）。東

京の大学卒業後に農業関係の仕事に就きましたが、各地の大規模経営の光景を見て、農業を始める気にはなれなかったそうです。東京でアルバイトをし、その後造園の仕事をして6年続けました。ところが、「島とは異なる組織の中で自分には合わない」。そう感じた新開さんは、結婚を機に故郷で父とともに就農する決心をしました。

都会での仕事が、故郷の魅力をあらためて実感するきっかけになりました。「父は、自分が戻って来たとき、35年育てた木を伐り、新しく植えようと提案しました」。陽光が当たりすぎない北西の斜面で、作業効率を高めるために木の間隔を空けます。さ

らに夏と秋に芽かきを行い、病気に強くたくましく木を育てます。一方、JA広島ゆたかでは、国産レモンの供給量が少ない夏季の販売に挑戦しています。

大きさは5.5cm以上。「大きく、そしてピッカピカに輝くレモンが実ったときがうれしい」と、新開さん。温かい島の人たちに支えられ、懸命に栽培を続けてきた父の背中を見ながらレモンを作り続けます。



食・農・地域のくらしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「協同組合

とは何か」をテーマに毎月Q&A方式で解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資料として、ぜひ活用ください。

JAグループ  
共通コンテンツ

## 知って納得JA

—協同組合の力—

Q JAが発揮している「インフラ機能」って、何？

A 「耕そう、大地と地域の未来。」をスローガンに、未来に向けて発揮する、地域を支える機能のことです。

JAは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」です。助け合いの精神のもと、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を目的としています。

JAは、組合員と地域住民の皆さまの暮らしを、総合事業を通じて支えると共に、豊かな仲間づくりや、次世代に地域をつなぐための活動を応援することで、地域を支えるインフラとしての機能を発揮しています。

そして、消費者の皆さまの信頼に応える安全・安心な国産農畜産物を安定的に供給するため、農業振興を最重点課題として取り組み、生産者と消費者の懸け橋になることで地域の未来を支えるインフラ機能を担うために、JA自己改革を進めています。

（監修＝広島大学 助教 小林元）

### JAが発揮している主なインフラ機能



※インフラ機能はJAごとに異なります

耕そう、大地と地域の未来。